

中学校 技術・家庭科（技術分野） シラバス

3年間のねらい、学習目標

技術・家庭科 技術分野では、材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の4内容を題材として、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等の様々な異なる制約条件（トレードオフ）のもとで実現可能な解を求める（最適化する）ような実践的・体験的な活動や思考を行う。

これらは「①既存の技術の理解」、「②課題の設定」、「③科学的な理解に基づいた設計・計画」、「④課題解決に向けた製作・制作・育成」、「⑤成果の評価」、「⑥次の問題の解決の視点」により構成され、このような学習過程を経ることで技術分野において期待される資質・能力の育成を目指す。技術分野で育成すべき資質・能力は以下の通りである。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

つまり、「単に何かをつくる」ことが目的ではなく、課題解決の過程の一つとして「ものづくり（製作・制作・育成）」を行うという認識を持ち、工夫・創造する力を養う。また、新しい技術が溢れる未来に対して生徒一人ひとりが心躍らせるような姿を期待する。

第1学年	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
技術分野 (週1時間)	副教材	プリント類

学習到達目標

- ・情報及び生物育成の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・情報の表現や計算、デジタル化等の基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解する。
- ・生物の育成環境を調節する方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・情報及び生物育成に関わる技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成や機能、情報モラルについての知識を身に付けている。 ・作物、動物及び水産生物の成長、生態についての知識を身に付けている。 	情報及び生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。	進んで情報及び生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

学習方法

プレゼンテーション用ソフトウェアを用いた資料作成を取り入れることで、知識を整理すると共にコンピュータの使用法を身に着ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 生活や社会における技術の役割。 2. 発展する情報の技術と未来。 3. コンピュータの構成や機能を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 技術の発展の経緯や新技術を通して、技術を学ぶ意義を理解する。 情報に関する最新の技術を知る。 新しい技術はプラスの側面とマイナスの側面を持つことを理解する。 コンピュータの構成や機能を知る。 アナログとデジタルについて知る。 計測・制御について知る。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学ぶ力 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学期	1. 問題を解決するための未来の職業の在り方を考える。 2. 情報モラルと知的財産について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な職業から問題を発見する。 問題を解決するために、情報を活用した職業の在り方を考える。 プレゼンテーション用ソフトウェアを用いて発表する。 メディアによる情報の表現について知る。 知的財産とそれらを保護する権利について知り、正しい利用方法を理解する。 	
3 学期	1. 生物育成の技術に込められた工夫を知る。 2. 食の在り方について考え、問題解決の提案をする。	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある生物育成の技術を知り、これまでどのような問題を解決してきたかを理解する。 現代の生物育成の問題を認識し、解決する方法を提案する。 	

第2学年	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
技術分野 (週1時間)	副教材	プリント類

学習到達目標

- ・材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・材料の特徴や性質等の原理・法則と加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・材料と加工に関わる技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特性や加工の方法についての知識を身に付けている。 ・複数の側面から設計を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

準	し、製作品の機能と構造を決定している。		
---	---------------------	--	--

学習方法

1年間を通して、「身の回りの空間を有効活用する」というテーマで製品を企画、設計、製作、発表することにより、実社会との関連を意識した学習を展開する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 身の回りにある材料と加工の技術を知る。 2. 材料の特性や加工方法について知る。 3. 製図の方法を知る。	・既製品から問題解決の工夫を読み取り、材料の特徴や性質、丈夫な構造について知る。 ・本製作と同じ木材を用いて導入の実習を行う。	【評価の観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学期	1. 身の回りの空間を有効活用する製品を開発しよう。 2. 適切に製作や検査、点検を行う。	・製作に必要な図を書く。 ・スチレンボード等を使用して実物大の構想の試作を行う。 ・工具や機器を適切に使用して、設計に基づいた製作を行う。 ・生徒同士の評価を行い、改善、裁定案をする。	
3 学期	1. 開発した製品を売り込むためのCMを作ろう。 2. 情報通信ネットワークの構成。	・iPadを用いてCM作りを行う。 ・情報通信ネットワークの仕組みについて知る。 ・Webの仕組みや情報セキュリティについて知る。	

第3学年 技術分野 (週1時間 ※)	教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」
	副教材	プリント類

※ 家庭分野と合わせて1時間

学習到達目標

- ・エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫を知る。
- ・電気、運動、熱の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・生活や社会における問題を解決するためのプログラムについて考える。
- ・エネルギー変換に関わる技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・動力伝達の機構の仕組みや簡単な電気回路の配線についての知識を身に付けている。 ・アルゴリズムや設計を基にしたプログラムを考えることができる。 	情報及びエネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。	進んで情報及びエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

学習方法

はんだ付け作業を行った基盤を使用して、プログラムの学習を行うことで、ブラックボックス化されている身近な機器へ理解を深めることを意識した授業を展開する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<技術分野 週1時間 ※ 家庭分野も含む>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術を知る。 2. 電気回路を使った機器の製作をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・既製品から問題解決の工夫を読み取り、エネルギーの利用について知る。 ・様々なエネルギーが変換され活用されていることを知る。 ・電子部品の原理や取り扱い方を学ぶ。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査 2. 製作・制作物 3. ノート 4. 平常点
2 学 期	1. 身の回りの機器について調べる。 2. 計測・制御するコンテンツをプログラムする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムによる処理の自動化の仕組みを知る。 ・アクティビティ図やアルゴリズムを理解する。 ・プログラムソフトの使用方法を知る。 ・信号機のプログラムを制作する。 	
3 学 期	1. ネットワークを使用した双方向性のあるコンテンツをプログラムする。	<ul style="list-style-type: none"> ・操作性の観点からユーザインタフェースについて思考する。 ・設計に沿ったプログラムの制作を行う。 	

中学校技術・家庭科（家庭分野） シラバス

3年間のねらい、学習目標

生活に営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけようとする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見つけ出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族・家庭生活と地域の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

第1学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

学習到達目標

- 家族・地域に目を向け、将来について必要な能力を考える。
- 被服の働きと性質や取り扱いについて知り、カラーコーディネイトを考えて、個性をいかした被服の組み合わせ方を考える能力を身につける。
- 聖書・讃美歌バッグを作ることで基礎的な縫い方と用具の安全な取扱いを身につける。
- 住まいの様々な役割を理解し、災害などに備えた安全な住まいについて考え、自分らしい住まいをデザインする能力を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活のかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ・縫い方について理解するとともに、用具を安全に取扱い、製作が適切にできる。 ・目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解し、日常着の適切な手入れができる。 ・生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための布を用いたものの制作計画や制作について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。 ・衣類の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についての問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けている。 ・家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを論理的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための布を用いた制作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、衣類の洗濯と手入れについて、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々と協働し、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。衣服の働きを知り、快適でTPOに合わせた被服について考える。被服実習では聖書・讃美歌バッグを作り、基本的な裁縫技術を身につける。被服の手入れ方法について学び、長期休みには家庭で自分の洗濯物を行って手入れをする。衣服の選び方や修繕・リサイクルについても考える。

様々な住まいの働きについて学び、災害なども考え、安全で快適な住居をデザインする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<家庭分野 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入 私たちの家族・地域 2. 衣生活 ①衣服の働き 自分らしくコーディネート ②聖書・讃美歌バッグの作成 ③衣服の性質と手入れ ④洗濯をしてみよう	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 被服 ・衣服の働きを学ぶ。 カラーコーディネートについて知り、TPOに合わせた服装を考える。 ・基礎的な縫い方を身につける。物を大切に作る心を育てる。 ・衣服の繊維の特徴を学ぶ。 洗剤の働きを学ぶ。 取り扱い絵表示を学ぶ。 ・夏休みに家庭で実際に洗濯を行い、授業で学んだことを活かす。	【評価の観点】 ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
2 学期	⑤衣類の快適な着方 ⑥衣服の入手計画と選び方 ⑦衣類の収納・保管 ⑧衣類の補修・リサイクル 3. 住生活 ①住まいの様々な役割 ②共に住まう ③家族の健康と室内環境 ④家庭内の安全 ⑤家庭の手入れ・ 大掃除をしてみよう	・季節や地域合わせた着方を学ぶ。 ・衣類の入手方法と選び方についてお互いに意見を交換する。 ・衣類の収納・保管方法について学ぶ。 ・衣類の補修・リサイクルについて考え、持続可能な社会を考える。 ・世界や日本各地の住居について知り、住まいの役割を学ぶ。 ・家族など一緒に住まうことについて考える。 ・家族が健康に過ごせる室内環境について学ぶ。 ・家庭内に潜む危険について考え、安全な住まいにする対策を考える。 ・家庭の手入れ方法について学び、実際に家庭で大掃除をして、掃除方法をまとめる。	

3 学 期	⑥災害への備え ⑦災害時の住まいと暮らし ⑧地域に配慮した住まい方 ⑨安全で快適な住まいをデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な過去の災害について学ぶ。 ・災害時に安全に暮らせるよう、事前の準備と、災害時の対策を学ぶ。 ・地域に配慮した住まい方を学ぶ。 ・学んだことを活かし、安全で自分らしい住まいをデザインする。 	
-------------	--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

第2学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

学習到達目標

- 食事の役割について学び、必要な栄養素を考え、バランスと彩りの良い献立を考えることが出来る。
- 調理実習を通して、安全を考えた、基礎的な調理方法を学ぶ。
- 消費者としての自覚を持ち、契約について学ぶ。
- 環境に配慮して、持続可能な社会について考え、自分のできるエコ生活について取り組むことが出来る。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養素の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立について理解している。 ・食品や調理器具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や加増野消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けている。 ・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けている。 ・日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について考える力を身に付けている。 ・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして、解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、実践しようとしている。 ・中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。中学生が必要な栄養について学び、バランスが良く、彩りもよい献立を考える。調理実習では、班で協力して安全な調理法方法を学び、食事が栄養面だけでなくコミュニケーションについても大切なことを学ぶ。

契約について学び、安全な消費活動ができるように学ぶ。環境に配慮した持続可能な社会について学び、自分たちができることを探し、お互いに意見を出し合い、行動できるように話し合う。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<家庭分野 週1時間>

学	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
---	---------	--------------	-----------

期			
1 学 期	<p>1. 食生活</p> <p>①日本や世界の地域の食材と食文化</p> <p>②料理用語</p> <p>③食事の役割について</p> <p>④中学生に必要な栄養素</p> <p>⑤食事の計画・お弁当を考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域の料理から食文化や気候を知り、食への興味関心を持つ。 ・料理用語から、調理への関心を持ち、知識を深める。 ・食事は栄養を取るだけでなく、コミュニケーションなど他の面も学ぶ。 ・5大栄養素とそれらがどのような食品に含まれているかを学ぶ。 ・6つの食品群をバランスよく取りつつ、彩りの良いお弁当を考える。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
2 学 期	<p>⑥食品が食卓にのぼるまで</p> <p>⑦生鮮食品の選び方</p> <p>⑧いろいろな加工品</p> <p>⑨食品の表示</p> <p>⑩食品の選択・購入と保存</p> <p>調理実習（2回）</p> <p>①調理の計画</p> <p>②調理の基本</p> <p>③盛り付けと片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品が食卓にのぼるまで、どのように作られているのかを学ぶ。 ・新鮮でおいしい生鮮食品の選び方を学ぶ。 ・様々な加工品について学ぶ。 ・食品の表示を調べ、表示の意味を学ぶ。 ・食品の選び方・購入後の適切な保存方法を学ぶ ・安全で衛生的な調理方法について学び、班で協力して調理実習を行う。基本的な調理方法を身につける。 	
3 学 期	<p>2. 消費生活</p> <p>①消費生活の仕組み</p> <p>②商品購入のプロセス</p> <p>④購入方法と支払方法</p> <p>⑤契約と消費生活トラブル</p> <p>⑥消費者を支える仕組み</p> <p>⑦持続可能な社会を考えた自ら取り組むエコ活動の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚を持ち、購入時の注意点や契約とは何かを学ぶ。 ・消費者トラブルに巻き込まれた場合の相談先や対応の仕方を身に着ける。 ・持続可能な社会についてできることを考え、実践できるエコ活動に取り組む。 	

第3学年	教科書	教育図書「技術・家庭 家庭分野」
家庭分野 (週1時間 ※)	副教材	オリジナルプリント・家庭科ノート

※ 技術分野と合わせて1時間

学習到達目標

- 乳幼児の発達していく様子を学び、発達を支えるための知識を身につけ、適切な働きかけやお世話の仕方を学ぶ。
- 幼児発達段階を学び、幼児の成長に欠かせない遊びの観点から、幼児の発達段階に合わせた適切なおもちゃを考え、安全面に配慮し制作する。
- 自分自身の成長には家族やそれを支える多くの人に支えられていることに気づき、人とのかかわりについて、これから自分自身ができることを考えていく。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割、遊びの意義について理解している。 ・家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくすることができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を見つけ、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について課題を設定し、解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法

オリジナルプリントとノートを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。自分の成長について、家族の話を書くなどして、発達の様子を知る。赤ちゃん人形を使った保育実習では抱き方やおむつ交換などを行い、お世話の仕方を学ぶだけでなく、家族など多くの人の支えがあったことを考える。

幼児の発達段階を学び、遊びが欠かせないこととから、発達段階に合わせたおもちゃを考え、安全面を気を付けて制作を行う。

3年間の家庭科の学習から、衣食住など自分の成長には家族など多くの人の支えがあったことを振り返り、支えてくれた方への思い、これから自分自身ができることを考える。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 保育 ①自分の成長を振り返って ②乳児の特徴とかかわり方 ③幼児の体の発達 ④幼児の心の発達 ⑤幼児の身体の発達と家族の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が小さかったころの話を家族から聞き、成長の様子を知る。 ・赤ちゃん人形を使って、抱き方やおむつ交換などの実習を行う。 ・幼児の体の発達について学ぶ。 ・幼児の心の発達について学ぶ。 ・幼児の発達について、家族の役割の重要性を学ぶ。 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
	⑥子どもの成長と地域 ⑦幼児の遊びと発達 ⑧幼児の遊びを支える・幼児の発達段階に合わせたおもちゃを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの成長について、地域の役割の重要性を学ぶ。 ・幼児は遊びを通して発達するので遊びの重要性を学ぶ。 ・幼児の発達段階を知り、発達段階に合わせた安全なおもちゃを作る。 	
3 学期	2. 家族・家庭 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かし、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人に支えられていることに気づき、人とかかわりについてこれから自分で工夫できることをまとめる。 	